

令和2年3月23日

医療機関の長 殿

茨城県医師会会長 諸岡 信裕

「新型コロナウイルス関連感染症:第21報」

3月19日、第4回日本医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会が TV 会議システムを使用して開催されましたので、要点をお知らせします。

**1)横倉会長が新型コロナウイルス感染医師への非難に「遺憾の意」を表明しました。**

冒頭の会長挨拶で、群馬県の診療所医師が症状が出た後も診療を行っていたことについて、県知事が「遺憾に思っている」と発言したことに対して、県知事とそれを報じたメディアに対して抗議したことが報告されました。地域医療のために全力を尽くしている医師に対するこのような発言は、現場の医師の士気を著しく喪失させるものである。また、これに限らず様々な風評被害が確認されており、対処して行く方針とのことでした。

**2)感染が拡大したとき日本医師会は、医師会による相談外来の設置を提案しています。**

感染が拡大した場合、現在の帰国者・接触者外来に患者があふれて機能不全に陥る可能性が考えられます。そうした事態に備えて日本医師会では、医師会が新型コロナウイルス相談外来の設置を呼び掛けています。これは一般の医療機関に患者が向かうのを防ぐ意味もあります。休日・夜間診療所などを利用して医師会主導で PCR 検査の必要性、入院の必要性、PCR 検査の適応でないことを説明する機能、場合によっては検体採取を行うというものです。もちろん行政から感染防護具などの支給があることが前提条件としています。医師会単独ではなく行政との連携は不可欠です。

**3)診療については日本環境感染学会で作成された対応ガイドを参考にしてください。**

3月10日、日本環境感染学会から「医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド」第2版改訂版が出ました。一般医療機関での対応が記載されています。診療の参考にしてください。ただし帰国者・接触者外来へ診療を依頼する際、インフルエンザなどの検査で陰性を確認が必要とする記載がありますが、現在は他の感染症の否定は必要なくなりました。

**4)同時通訳サービスが開始されます。**

外国人患者への対応の支援として、日本医師会医師賠償責任保険の基本契約に4月1日から同時通訳サービスが組み込まれます。17言語に対応しており、電話医療通訳と機械翻訳があります。前者は1回30分として年間20回まで無料です。後者は無制限に24時間利用可能です。

## 5)新型コロナウイルス抗体検査試薬キットが発売されました。

KURABO(倉敷紡績株式会社)より新型コロナウイルス抗体検査試薬キットが発売されました。血液中のIgM抗体またはIgG抗体をイムノクロマト法により検出するキットであり約15分で判定できます。値段は10回分で25,000円です。保険適用はされておらず生産量に限界があり(現在のところ1週間で500個)、一般医療機関ですぐに利用することはできない状況です。中国で行われた臨床試験ではIgMの場合、感度が82.5%ということでした。

### 新型コロナウイルス感染症患者(4例目)の発生について

3月21日、土浦保健所の帰国者・接触者相談センターに相談があった方が、帰国者・接触者外来を受診し、県衛生研究所で検査を実施したところ、3月22日19時頃に新型コロナウイルスに感染していることが判明しました。土浦市在住の40歳台女性、都内の医療機関に派遣社員として勤務し、医療機関への受診以外は自宅療養していました。